

社会福祉法人 福田会 週次報告書

2023年12月12日 / Vol. 059



ご支援総額

2023年12月4日までの寄付総額

129,853,010 円

寄付金使用総額

3473809.36 zł (約1億421万円)

11/27(月)～12/10(日)の期間中の寄附金使用額

4579.88 zł (約13万7千円)

11月27日(月)～12月10日(日)の支援活動

食材支援 (毎週金曜日) ※祝日等で変動あり

一人あたり50złの予算を設け、1週間分の昼食用食材の購入を支援。

12月1日(金) 22家族が参加 合計 2977.88 zł (約10万4千円)

12月7日(木) 20家族が参加 合計 2712.02 zł (約9万5千円)



今後の支援活動

クラクフ市内にある、Zustricz財団(2013年から活動している、ウクライナ人支援団体)と協力し、ポーランド語コースを実施予定。

同コースは来年1月23日より開始予定で、現在は受講生の募集を行っている。

昨年より福田会の支援活動に協力している、ウクライナ出身のイリーナ・イヴァノヴァ氏がコーディネーターを務める。



画像は、同財団のFacebookページ



現地の動向

12月に入り、ポーランドでは日中でも気温が氷点下の日々が続いている。ウクライナでも厳しい冬を乗り越えるために、様々な手段が講じられている。

昨年の攻撃からまだ完全に修復されていないエネルギーシステムに対する懸念が残るなか、ウクライナ政府はディーゼル発電機の輸入や必需品の貯蓄、および発電機や太陽光パネルへの投資を行うなどの対策を取っている。

NATOの事務総長は、ロシアがウクライナのエネルギーおよび暖房インフラを破壊するために大量のミサイルを貯蓄していると警告をしている。

昨年はロシアによって1200以上のミサイルとドローンが発射され、広範囲で停電や暖房の中断が発生したが、今年もウクライナは同様の苦境に立たされていると言える。

12月6日、ポーランド国境警備隊は過去24時間に16,300人余りのウクライナ人がポーランドに入国したと発表した。今後もエネルギー不足を懸念してポーランドに越冬してくるウクライナからの避難民が絶えることはないだろう。

Polskie Radioが行った調査によると、2023年11月時点でポーランド国民の62%が戦禍に苦しむウクライナ人の受け入れに賛成している。

ウクライナからの避難民がポーランドで暖かい冬を過ごすためには、居住権や教育、医療および社会福祉サービスの利用保障など、ポーランド政府からの手厚いサポートが依然として必要である。



(Photo by Polish Border Guard/twitter.com/Straz_Graniczna)